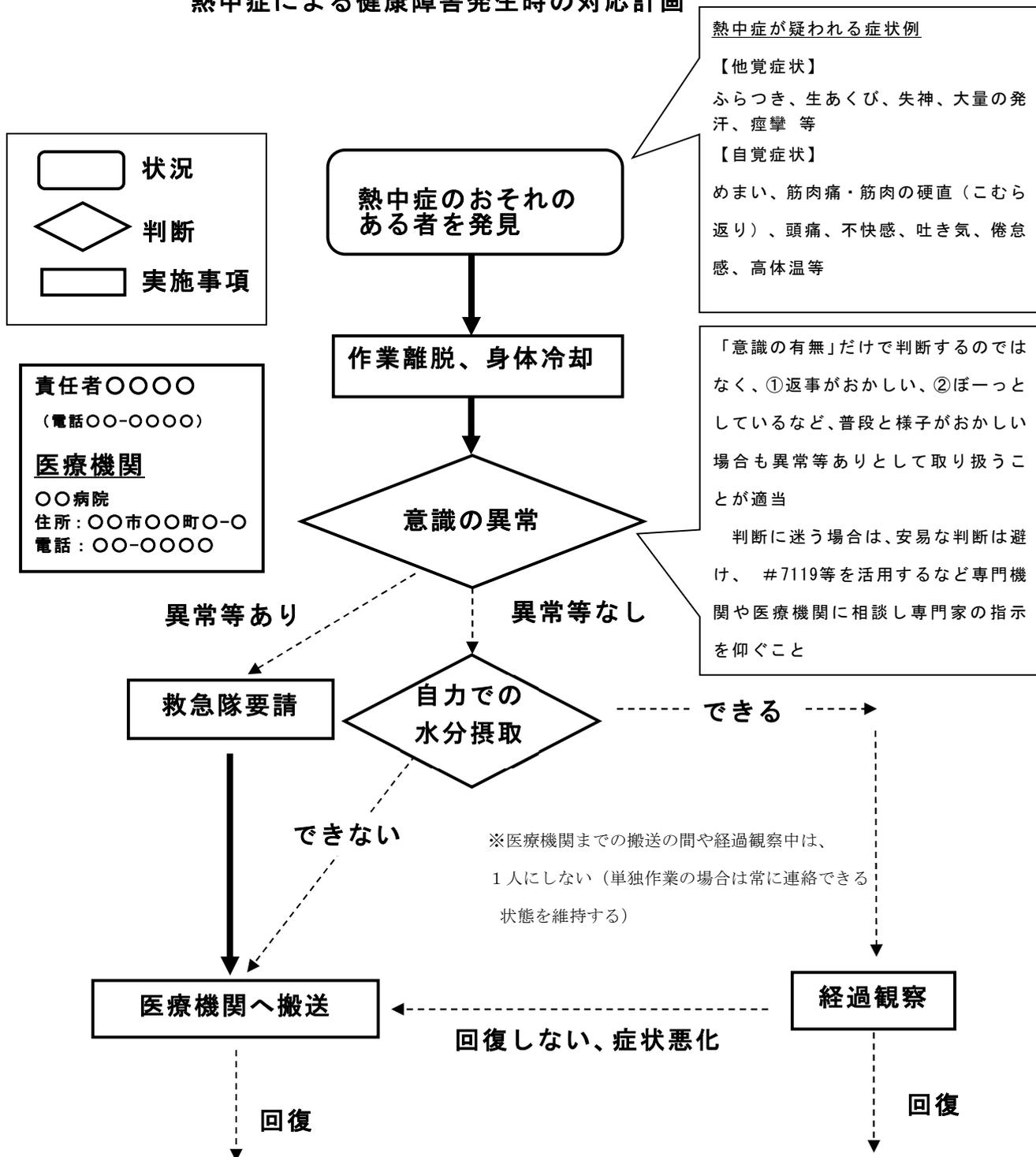


手順例①

熱中症による健康障害発生時の対応計画



  状況  
 判断  
  実施事項

**責任者** ○○○○  
 (電話 ○○-○○○○)  
**医療機関**  
 ○○病院  
 住所：○○市○○町○-○  
 電話：○○-○○○○

熱中症が疑われる症状例

【他覚症状】  
 ふらつき、生あくび、失神、大量の発汗、痙攣等

【自覚症状】  
 めまい、筋肉痛・筋肉の硬直（こむら返り）、頭痛、不快感、吐き気、倦怠感、高体温等

「意識の有無」だけで判断するのではなく、①返事がおかしい、②ぼーっとしているなど、普段と様子がおかしい場合も異常等ありとして取り扱うことが適当

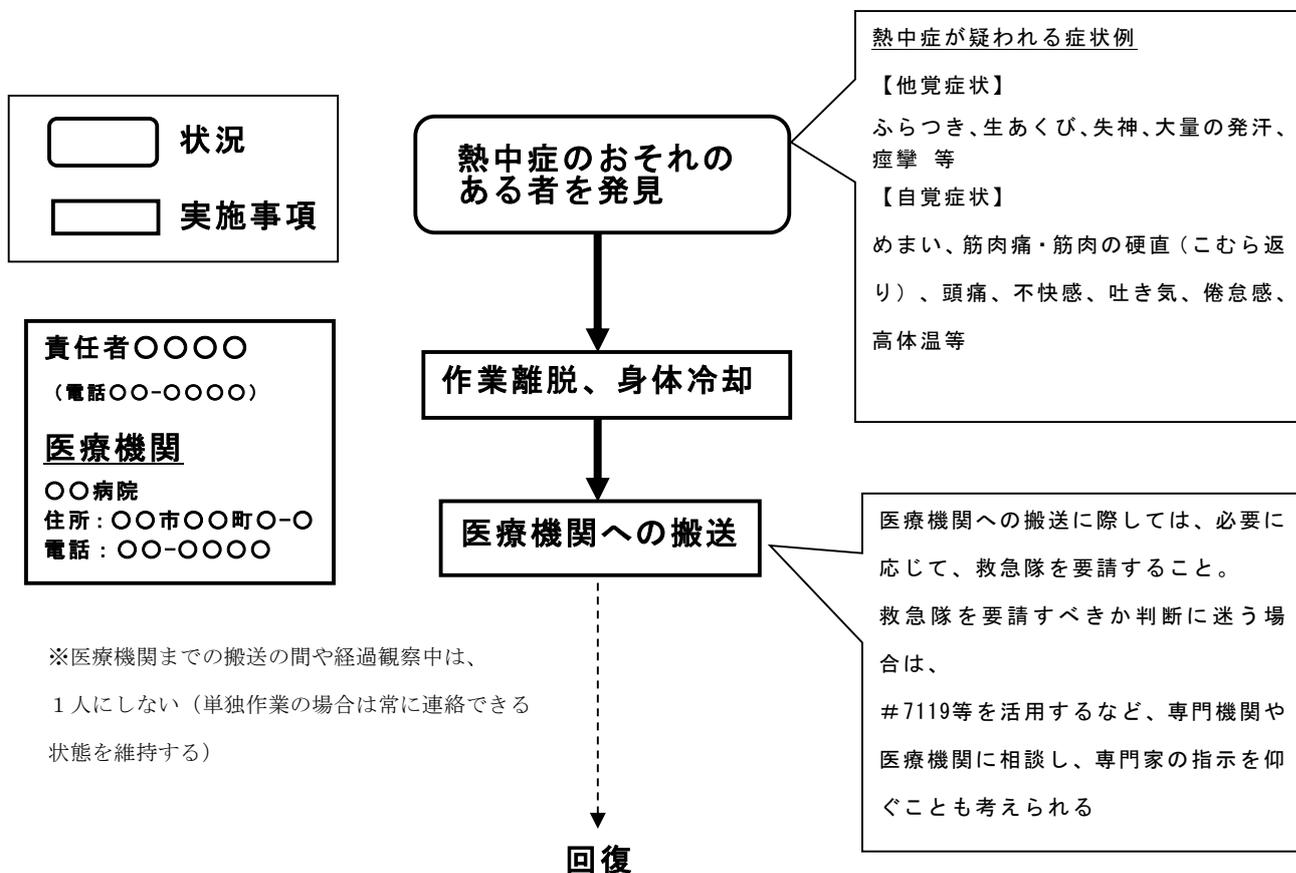
判断に迷う場合は、安易な判断は避け、#7119等を活用するなど専門機関や医療機関に相談し専門家の指示を仰ぐこと

※医療機関までの搬送の間や経過観察中は、1人にしない（単独作業の場合は常に連絡できる状態を維持する）

回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておくこと

手順例②

熱中症による健康障害発生時の対応計画



回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておくこと